

多摩丘陵と国分寺崖線の植生と地質の比較

県立麻生高校 自然科学部
 2年 山本 大智・工藤 優輔 3年 戸田 賢太郎 1年 小林 蒼空
 顧問 樋口 順亮 山口 大貴 小橋 真紀



図: 多摩丘陵の地形

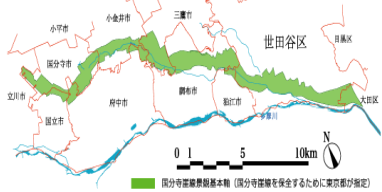
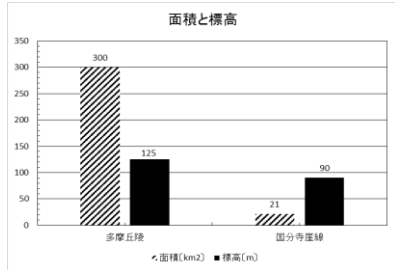


図: 国分寺崖線の地形図

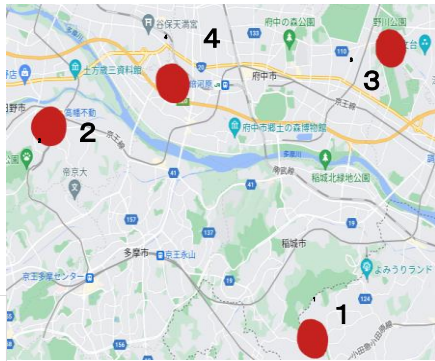


グラフ: 多摩丘陵と国分寺崖線の面積と標高の比較

1. 序論

1-1

本校の近くに多摩丘陵があるため調べてみたところ、地形的に多摩川により国分寺崖線と分断されており、その2つの地質や植生を比較することにより新たな知見が得られるのではないかと思います、調査を開始した。



1: 向原南緑地公園 2: 多摩丘陵自然公園
 3: 野川公園 4: 府中崖線西府緑地公園

表: 多摩丘陵と国分寺崖線の標高、距離、及び面積

	標高	距離	面積
多摩丘陵	125m	70km	300km ²
国分寺崖線	90m	26km	21km ²

結果

採取した土壌を乳鉢に入れ、蒸留水を加えて洗ったのち、顕微鏡観察を行った。採取した土壌の写真及び土壌の顕微鏡観察により得られた写真を以下に示す。

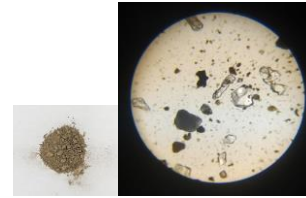


図: 向原南緑地公園の土壌の様子(左) 顕微鏡写真(右)

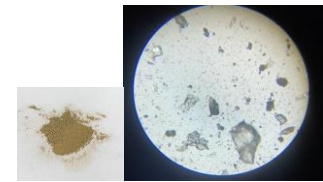


図: 多摩丘陵自然公園の土壌の様子(左) 顕微鏡写真(右)

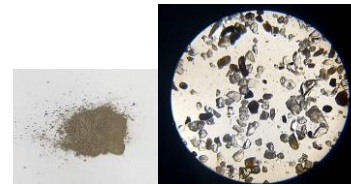


図: 野川公園の土壌の様子(左) 顕微鏡写真(右)

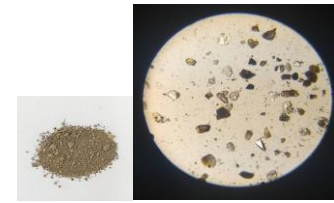


図: 府中崖線西府緑地公園の土壌の様子(左)と顕微鏡写真(右)

考察と展望

今回の顕微鏡観察結果から、場所によってそれぞれ土壌の中の鉱物の作りが異なるのは、地面が堆積した高さや元々の地面からどれだけ堆積したかによって異なると考えられる。

また、多摩丘陵自然公園や野川公園の土壌の粒子に対し、府中崖線西府緑地公園で採取した土は、全体的に粒子が細かった。国分寺崖線側の土壌採取場所は、両方とも湧き水や小川の近くであったため、このような差が生じたと考えられる。

今回の調査では、植生の分布などに関して十分な研究ができなかったため、今後は植生に関しても調査していきたい。